

教会について 聖書から考える

十勝聖書フォーラム 鹿追キリスト教会



【今日のアウトライン】

I. 教会の今

II. 聖書的教会とは？

III. 制度的教会の歴史

IV. 使命から考える地域教会

V. 伝道と信仰の継承を考える





1. 教会の今

既存の制度的教会の危機

- 教会員、礼拝出席の減少。
 - 教勢の低下が加速 経済的な困難
- 教会堂、教会組織の維持が困難に
 - 無牧師、兼牧、合併…、都市部でも増加
 - 教会堂の閉堂、宗教法人の解散も増加
- 教派、教団単位でも、組織の維持が困難に
 - 互助制度や年金制度の崩壊。神学校の閉鎖

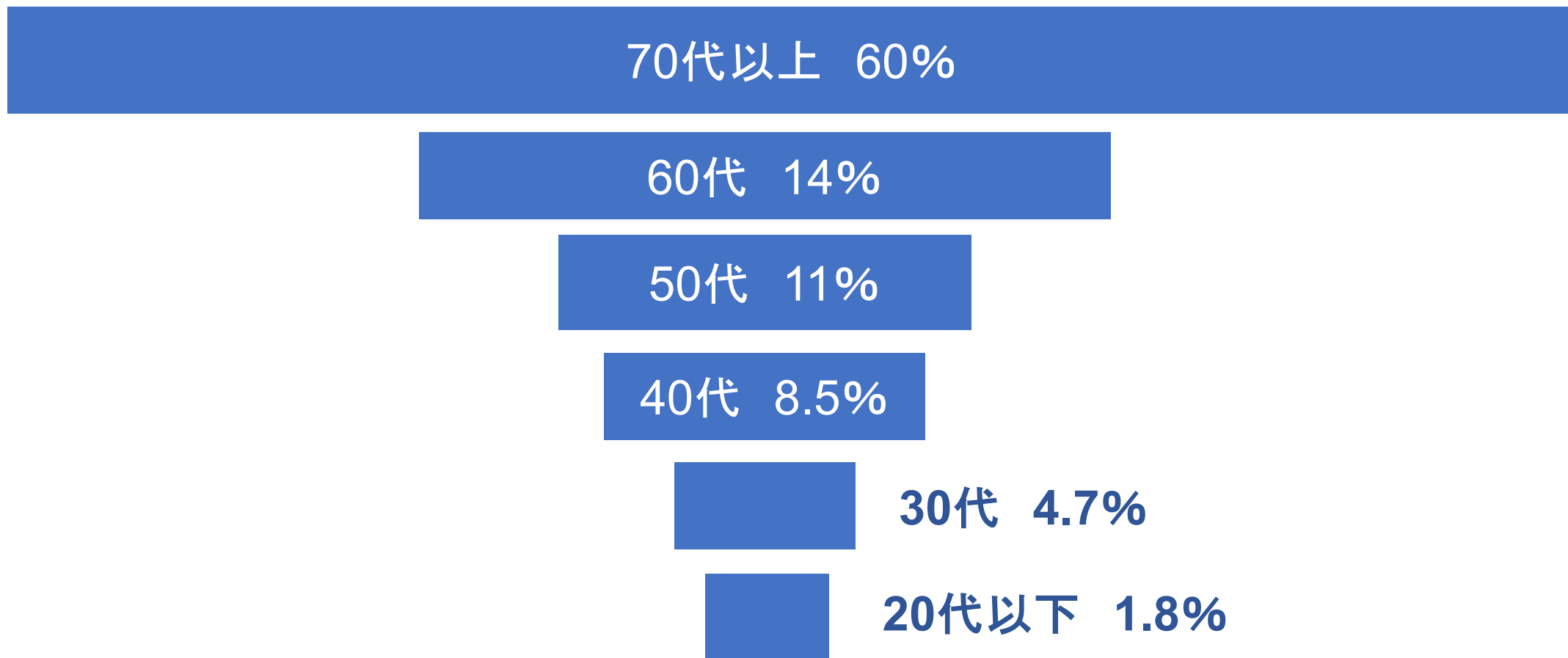
教会の危機が加速!!



【日本基督教団 信徒の世代別構成 2014年データより】



【日本基督教団 2023年の状況(推定)】



【日本基督教団 これからは？】

70代以上

60代

50代

40代

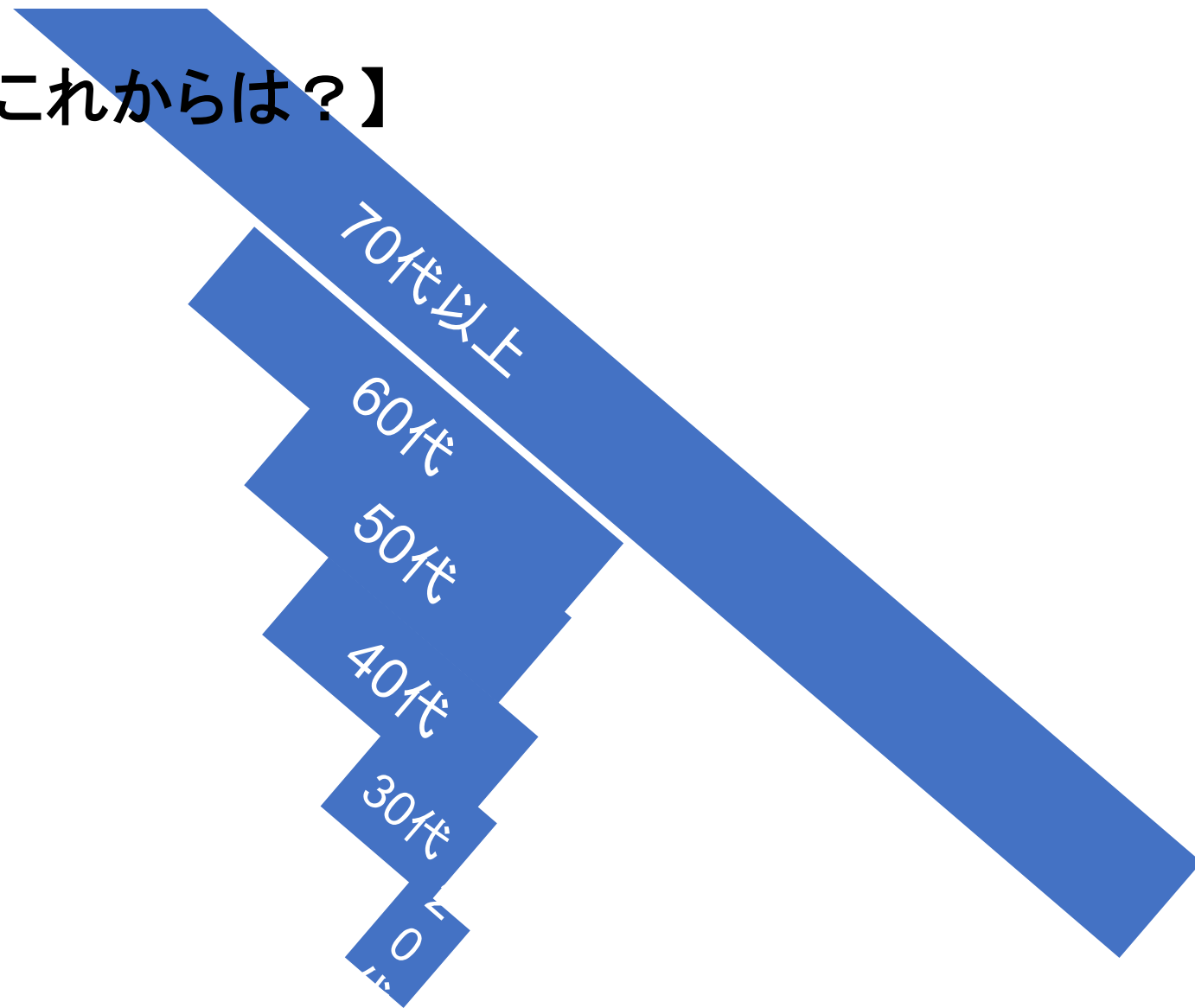
30代

20代

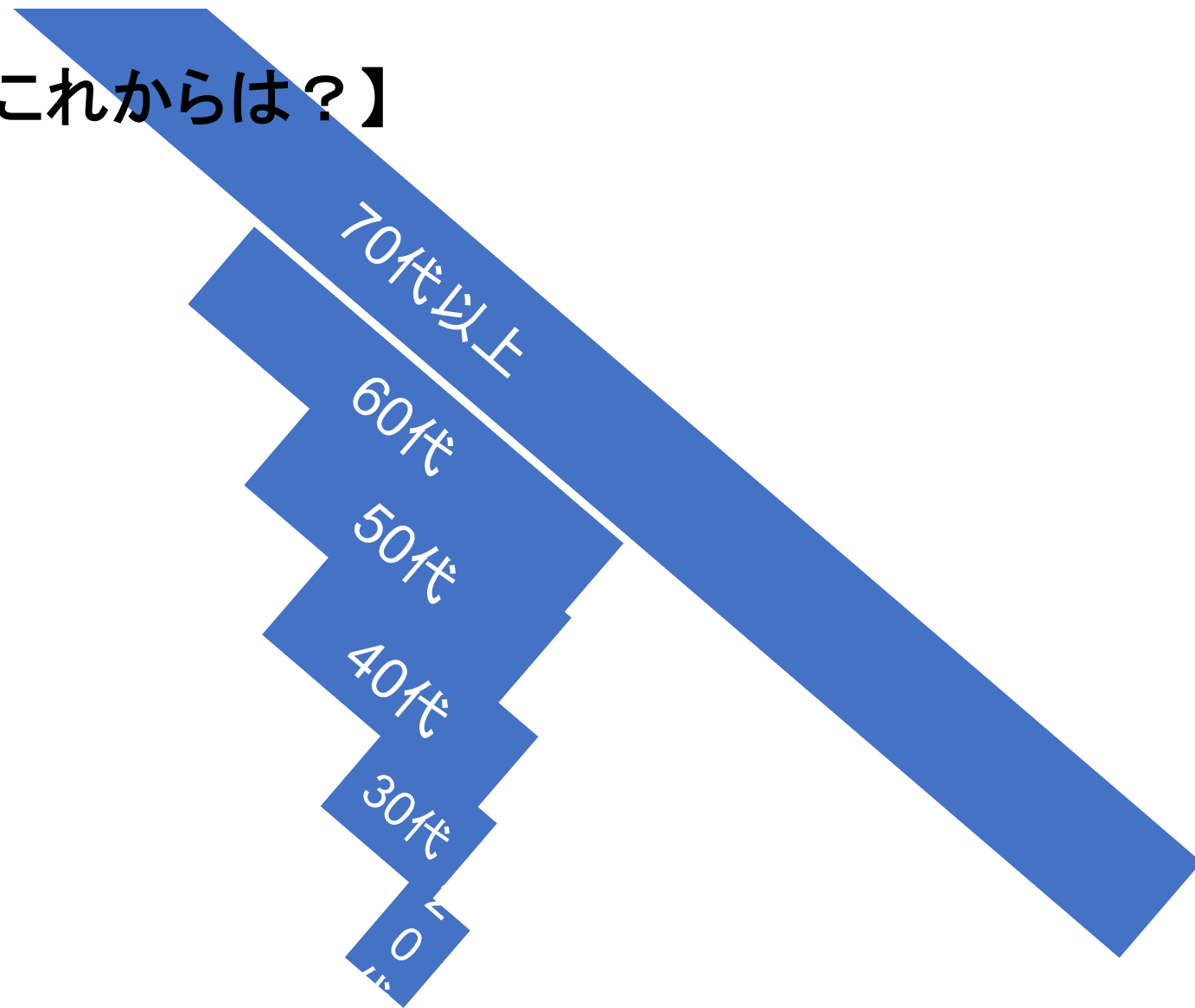
10代

0代

【日本基督教団 これからは？】



【日本基督教団 これからは？】



一つ、確認しておこう!!

■誰もが平等に歳をとる → 当たり前のこと

■歳を重ねることも、信仰者にとっては恵み

「ですから、私たちは落胆しません。

たとえ私たちの外なる人は衰えても、

内なる人は日々新たにされています。 Ⅱコリ 4:16」

問題は、「高齢化」ではなく、「信仰の継承」

信仰の継承のために!!

■ 信仰の継承 = 伝道・福音宣教

→ 家族だからといって自動的に救われない

■ 私たちは、何を誰に継承すべきなのか？

■ そもそも、教会とは何なのか？

教会について、考えて行こう!!



II. 聖書の教会とは？

聖霊降臨

使徒2:1～4

五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。

すると、みなが**聖霊**に満たされ、**御霊**が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しだした。

- 主イエスの復活から50日後。
エルサレムで、弟子たちに**聖霊**が!!



聖霊降臨により
教会が誕生

教会の誕生

An aerial photograph of the Temple of Jerusalem, showing the large rectangular platform (the Temple Mount) and the surrounding walls. The image is used as a background for the text.

最初の弟子たちは、全員 “ユダヤ人”
エルサレム教会も、“ユダヤ人の教会” だった。

福音の広がり



迫害により散らされたユダヤ人信者により、
異邦人世界の“**離散のユダヤ人**”に、
さらに、“**異邦人**”にも福音が伝えられた。

ユダヤ人と異邦人による教会

エペソ2:13~16

しかし、かつては遠く離れていたあなたがた(異邦人)も、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。

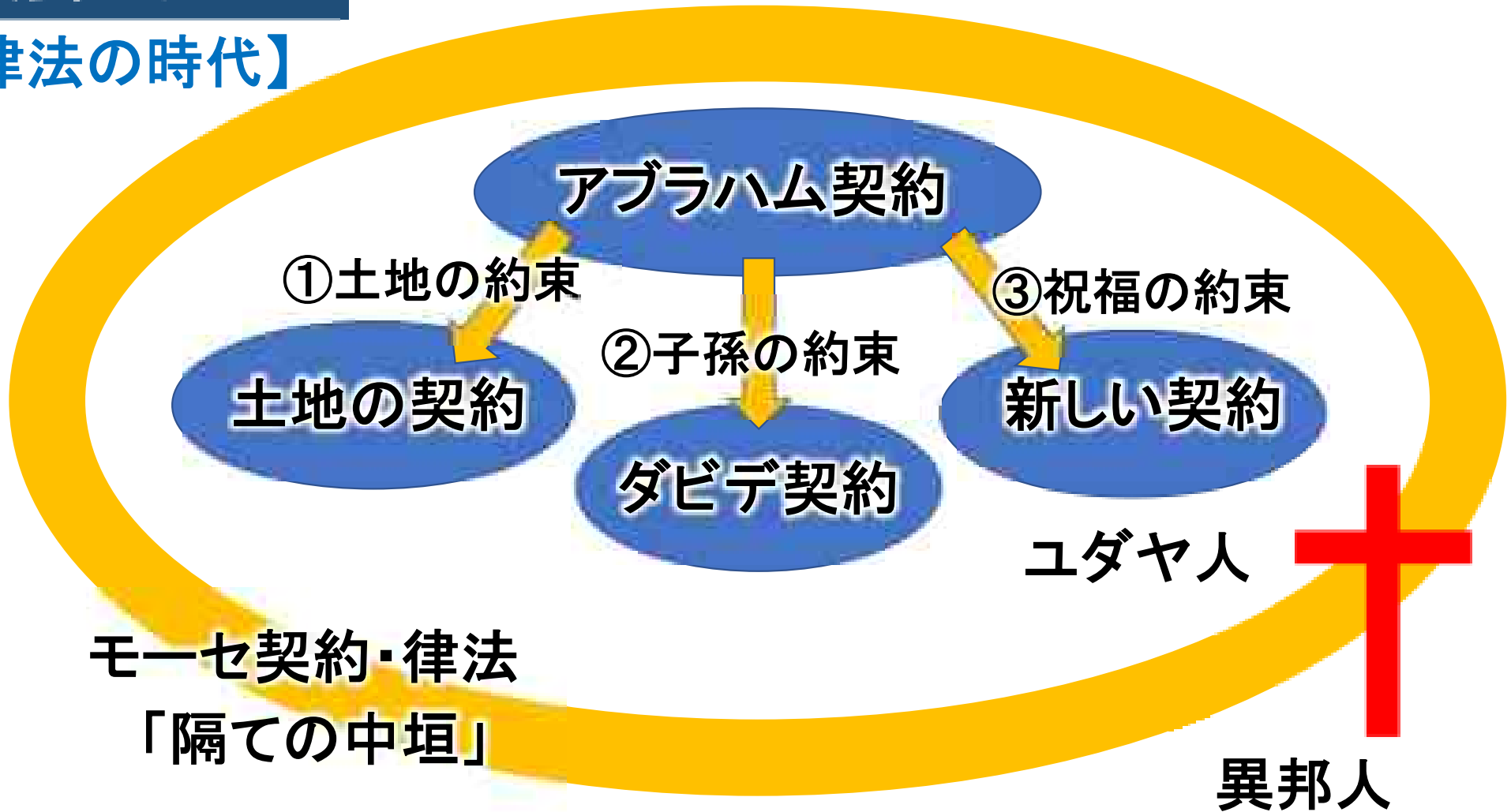
実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。

壁/敵意 = 律法

キリストの体
= 教会

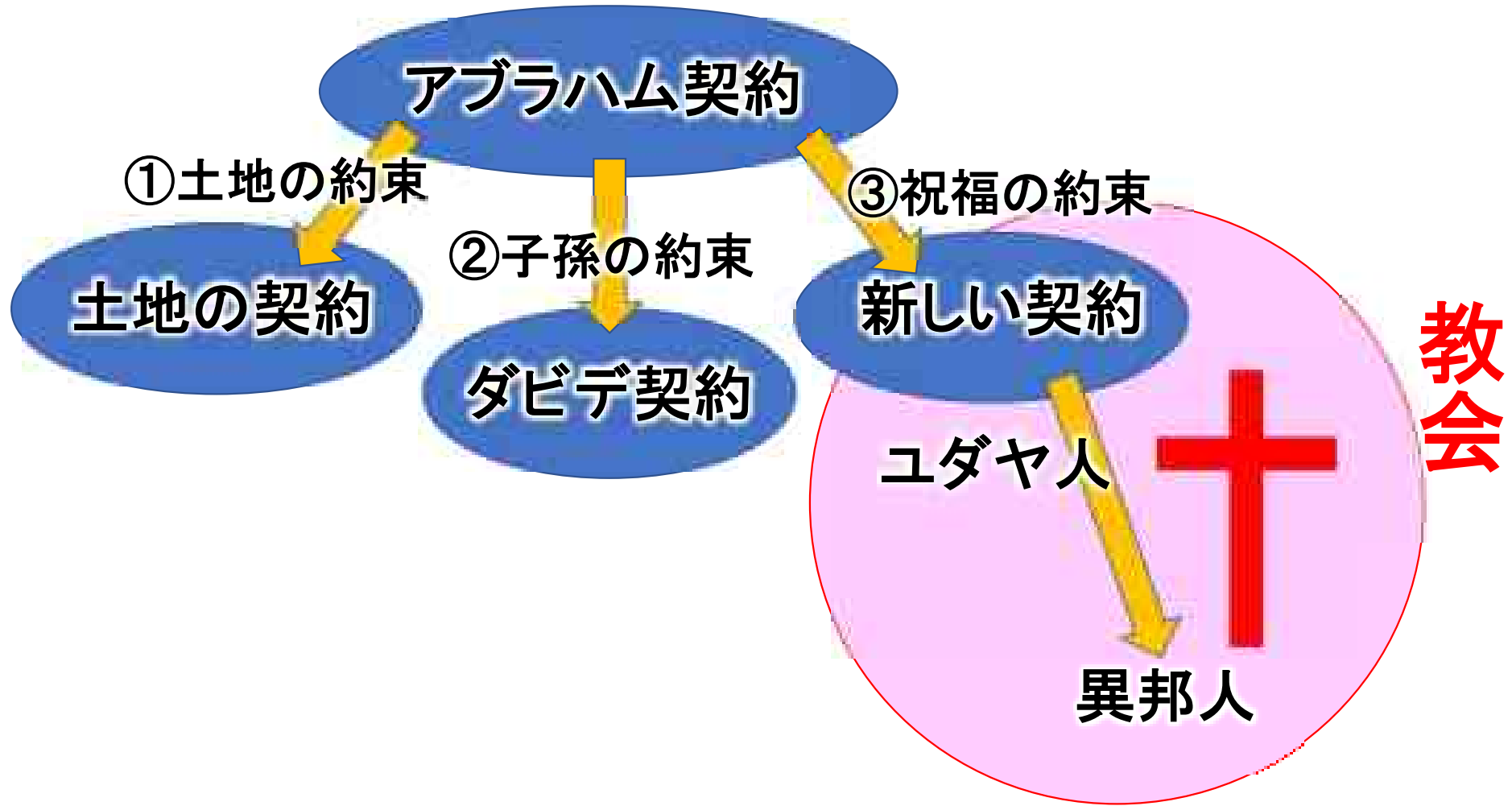
教会とは？

【律法の時代】



教会とは？

【教会の時代】



聖霊のバプテスマ

Ⅰ コリ 12:13

「私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、
奴隷も自由人も、**一つの御霊によってバプテスマ***を受けて、**一つのからだ***となりました。
そして、みな一つの御霊を飲んだのです。」

■ “**聖霊のバプテスマ**”を受けて、
“**キリストの体・普遍的教会**”の一員に!!

→信じて救われた瞬間、
すべての信者に起こっていること!!
(位置的真理)



すべての信者は
キリストの体の一部

「教会」が指す二つの意味

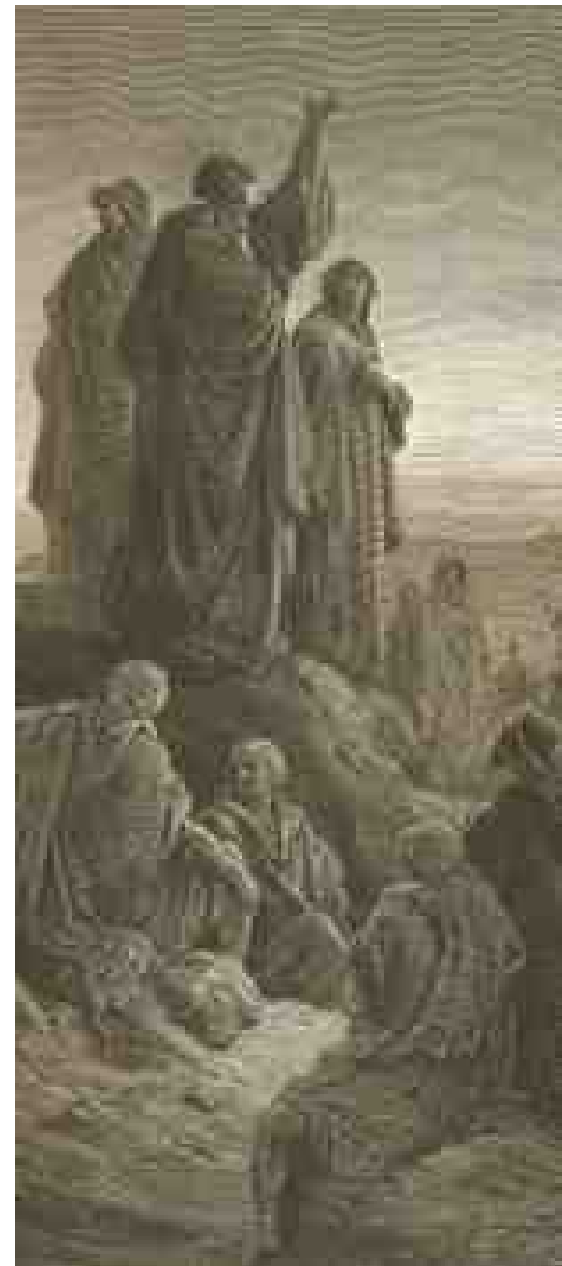
■ **教会** …エクレシア

➔この世から主に“呼び出された会衆”

① **普遍的教会** …すべての時代、場所の
真実の信者全員
➔目には見えない教会。

② **地域教会** …**地上にある教会**
偽の信者も混在
➔目に見える教会

※教派教団も、単立教会も家の教会も、“**地域教会**”
➔**按手された長老の権威の下にあること!!**



奥義としての教会

コロサイ1:25~26

私は神から委ねられた務めにしたがって、**教会**に仕える者となりました。あなたがたに神のことばを、すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた**奥義**を、余すところなく伝えるためです。

この**奥義**が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この**奥義**とは、あなたがたの中におられる**キリスト**、**栄光の望み**のことです。

キリストの体なる教会は

隠されていた奥義



メシア以前の「神の国」

①永遠の王国 普遍的王国

②靈的な王国 (真の信者たち)

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

⑤メシア的王国・千年王国

イスラエルが約束のメシアを受け入れれば、**神の国**が、実現されるはずだった。

【地上での神の国】

奥義としての「神の国」

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

新天新地

【地上での神の国】

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国



④奥義としての王国

(恵みの時代≡教会時代)
メシア拒否 ~ メシア受容



III. 制度的教会の歴史

初代教会の時代

使徒2:46～47

■ 聖霊降臨、5千人が回心 → 最初の教会

「そして、毎日心を一つにして宮に集まり*、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事とともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました」

* 神殿で、イエスの教えと聖書を学んでいた弟子たち

→ 主イエスも、神殿で人々に教えていた。

「わたしは毎日、宮で座って教えていた。

マタイ福音書26:55」

聖書の解き明かし = そのまま伝道に!!



初代教会の組織化

使徒4:34～35

「彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。地所や家を所有している者はみな、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった。」

- 信者はユダヤ共同体から排斥、経済活動も困難に
- この後、生粋のユダヤ人と離散のユダヤ人の間で、やもめへの食事の配給を巡るトラブルが。

→ ステファノたち7人の奉仕者を選出。

「私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します。

使徒 6:4」



“キリストを教える” 教会の務め

使徒の働き

■エルサレム教会の働き

「そして毎日、宮や家々でイエスが**キリスト**であると**教え**、宣べ伝えることをやめなかった。使 5:42」

■アンティオキア教会の働き

「彼らは、まる一年の間教会に集い、大勢の人たちを**教えた**。弟子たちは、アンティオキアで初めて、**キリスト者**と呼ばれるようになった。使 11:26」

■ローマにおけるパウロの宣教

「少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、**主イエス・キリストのことを教えた**。

使 28:31」

キリストを教え学ぶのが
キリスト者

使徒の働きに学ぶ地域教会の組織

- 当初の伝道の拠点が、**会堂**(シナゴーク)
 - ➔ 長老たちが導く信者の共同体が、会堂
 - ➔ 会堂で拒まれれば、信者の家に集っていた。
- 使徒たちが、**長老**たちを按手し、委ね、次の町へ
 - ➔ 地域教会が誕生
- 一方、地域教会間の指導者の移動も多かった
 - ➔ 当時のユダヤ人社会自体、流動性が高かった
 - ➔ 複数のリーダーたちが有機的に移動しながら、相互に伝道、牧会の働きを担っていた。



普遍的教会は、広がり、つながり、着実に成長していく!!

地域教会は、起こり、廃れ、移り変わっていく!!

ローマ

エフェソ

コリント

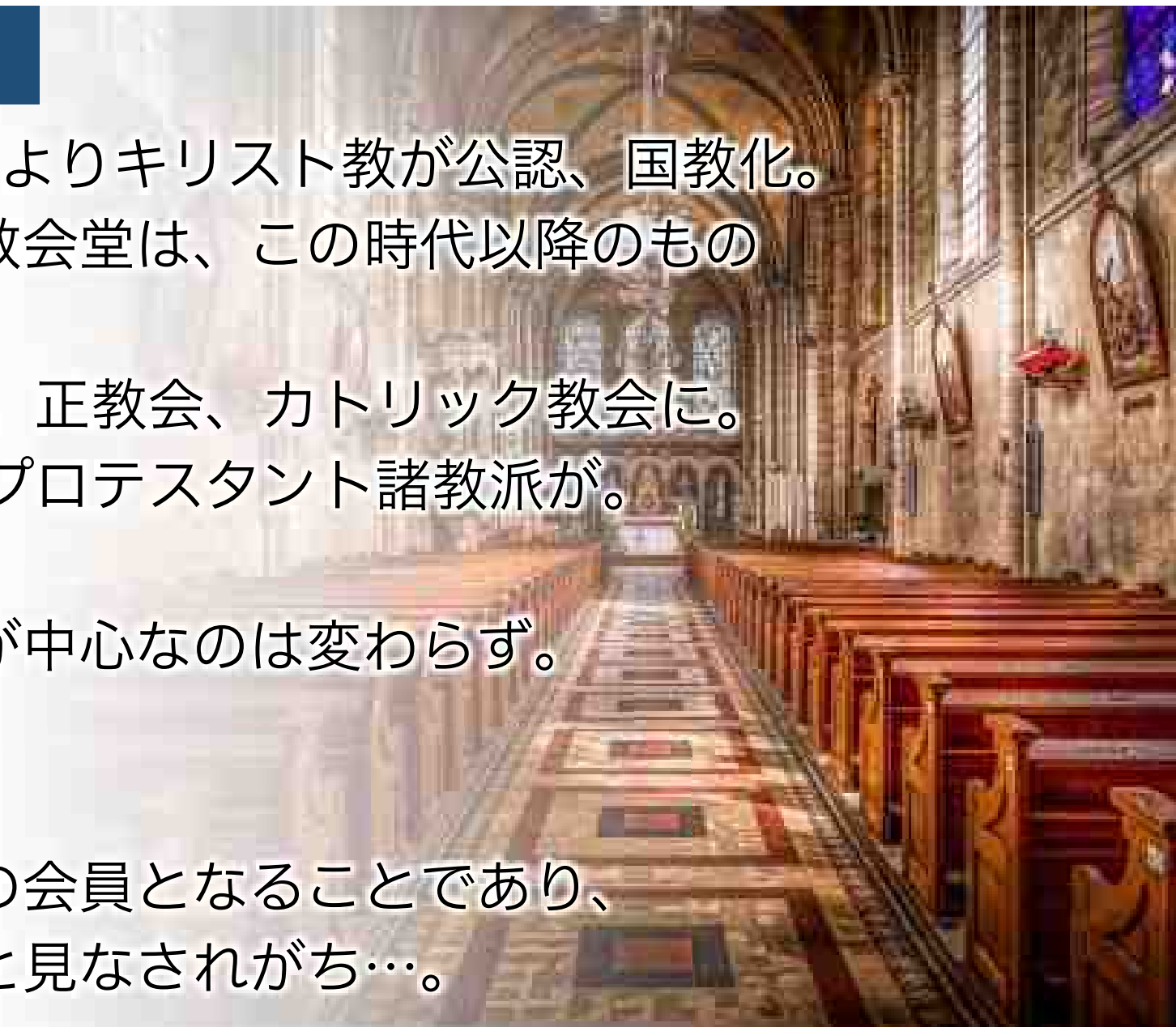
アンティオキア

エルサレム

- エルサレム教会は70年に消失。
- 中心となる教会は移り変わり、多くの地域教会も消えていった。

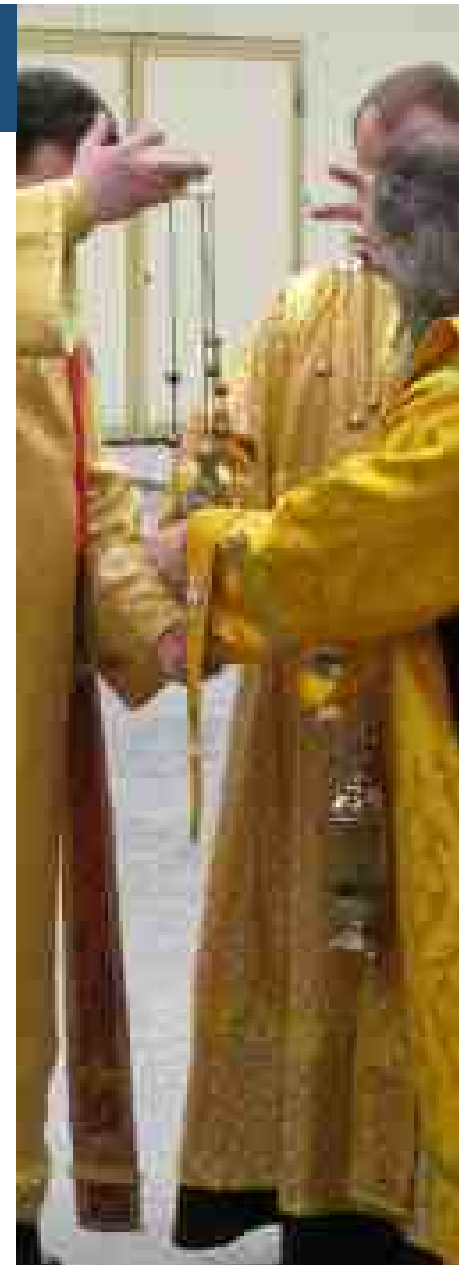
制度的教会の出現

- 4世紀以降、ローマによりキリスト教が公認、国教化。
 - ➔ 今あるような教会堂は、この時代以降のもの
- 11世紀の東西分裂で、正教会、カトリック教会に。
 - ➔ 16世紀には、プロテスタント諸教派が。
- 国教会、制度的教会が中心なのは変わらず。
- 制度的教会において、
洗礼は、制度的教会の会員となることであり、
聖餐は、会員の確認と見なされがち…。



儀式中心の礼拝に陥った教会の問題点

- 礼拝のほとんどは、定例化した儀式であり、御言葉の解き明かしは、ほんの10~15分程度。
例) “15分以上は長すぎる” …とある教団の牧師
- 特定の儀式を秘儀として教える教派も多いが…。
- 過越祭も聖餐式も、主の業の記念。➡視覚教材
『わたしが喜びとするのは**真実の愛**。いけにえではない(ホセア6:6)』とはどういう意味かを知っていたら、あなたがたは、咎のない者たちを不義に定めはしなかったでしょう。マタイ12:7」



世界に再び広がる「家の教会」

- 初期の地域教会は、**家の教会**だった。
- 迫害の厳しい地で、主流となる**家の教会**。
中国、イラン、イスラエルなど…。
- 欧米などキリスト教国でも、増え広がりつつある
→ 自発的な集い。ネット等を活用した聖書研究
- 日本でも。**聖書フォーラム運動**もその一つ。





IV. 使命から考える地域教会のありよう

大宣教命令に学ぶ教会の使命

■ マタイ福音書28:18～20

「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

ですから、あなたがたは **①行って**、あらゆる国の人々を **②弟子としなさい**。

父、子、聖霊の名において彼らに **③バプテスマを授け**、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように **④教えなさい**。

見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」



大宣教命令に学ぶ教会の使命

■ 主イエスから、教会への4つの命令

- ① 行きなさい → 世に出て行く
- ② 弟子としなさい → 弟子として成長する
- ③ バプテスマしなさい → キリストに染まる
- ④ 教えなさい → キリストの全貌を教える

■ 逆のことを行っていないか？

- ① 教会堂に来なさい
- ② 弟子教育は、教職者や神学校にまかせなさい
- ③ この教会の会員になりなさい
- ④ 牧師だけに教えさせなさい

すべての
信者への命令



御言葉がひとりでに育てる

マルコ4:26～29

「神の国はこのようなものです。人が**地**に**種**を蒔くと、夜昼、寝たり起きたりしているうちに**種**は芽を出して育ちますが、どのようにしてそうなるのか、その人は知りません。**地**は**ひとりでに実をならせ**、初めに苗、次に穂、次に多くの実が穂にできます。実が熟すと、すぐに鎌を入れます。収穫の時が来たからです。」

■ **信者(畑)**を育むのは、人ではなく、**主イエスご自身種(御言葉)**の内に、主の命があり、力がある。

■ 聖書を全体の文脈に従って、解き明かしていくなら、キリストの弟子は自ずと育まれ、地域教会も成長!!



地域教会の必要を満たされる主

マタイ6:33

「まず**神の国**と**神の義**を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

■ 第一に求めるべきは、**神の国と神の義**

- 普遍的教会の成長
- 再臨の主イエスがもたらす神の王国

■ 神の計画の全貌を理解し、再び来られる主を待ち望む

- ヘブル的視点に沿った聖書研究が必須
- 地域教会において、宣教のための必要は、すべて満たされていく!!



地域教会の存在意義を確認しておこう!!

- 最初の地域教会・エルサレム教会は40年経たずして、70年に消失
 - 使徒の働きに記された地域教会は、どこも継続していない!!
- 地域教会に与えられた最大の使命は、**普遍的教会の成長**
 - ①福音宣教、②個々人の信仰の成長
- 地域教会は、過程・手段。永続性はないし、永続の必要もない。
 - 継続して用いられて行くのは、もちろん素晴らしいこと
 - 一つの働きを終えたら閉じても構わない

その地域教会は、普遍的教会の成長に貢献しているか？

V. 伝道と信仰の継承を考える



伝道の本質を考えよう

■ 誰かが、私に福音を伝え、信仰を継承してくれた。

→ **伝道**とは、**信仰の継承**

■ クリスマン家庭で、キリスト教文化は自然と身についても、信仰には、自発的な応答が必要。

例) 棄教した牧師。キリスト教文化は身についていたが…

→ **子どもへの信仰の継承**は、**子どもに対する伝道**

■ この人に信仰を継承する、という意識で伝道しよう。

子どもに伝道する、という意識で継承しよう。

「伝道」は「継承」 「信仰の継承」は、すなわち「伝道」

伝道の本質を考えよう

- 伝道とは、信仰の**継承**であると考えたら？
 - ➔ 伝道の時点から、**育成**の視点が求められる
- 私が受けとった知識、育んだ信仰を、この人に**継承**する
 - ➔ 自然と、弟子の**育成**につながる
- 伝道メッセージでも、**継承**・育成のイメージは必要
信じたその後の歩みにつながっていくものであること
- 個人の救いにとどまらず、再臨、世界の回復、神の計画を伝える
 - ➔ **育成**には、地域教会での体系的な聖書の学びは必須

ネット上での伝道のメリットとデメリット

メリット

- 敷居の低さ・参加しやすい
- 広がり
- 時間・距離が関係ない

デメリット

- 関係性の希薄さ
- 移り変わりやすい
- 聖別の思いが薄くなりがち

- 信仰の成長のためには、**顔と顔を合わせた関係性**は必須
ネット上だけでは、どうしても補えないことがある!!

浮彫りになるのは、地域教会の重要さ

あらゆる世代に福音宣教と聖書研究を!!

■常に何より優先すべきは、**福音宣教**と**聖書研究**

★**福音宣教** …福音を伝える

★**聖書研究** …御言葉の解き明かし

聖書全体を、ヘブル的視点(真の著者の)で学ぶ

■子どもも若者も高齢者も、誰に対しても伝えるべき内容は同じ

★**神の計画の全貌** …天地創造から新天新地まで

★**救いの原則** …福音、信仰と恵みによる救い、救いの永遠性

★**信仰の成長** …励まし合い、時に戒めあえる関係性

★**終末論** …ゴールである神の王国・栄化

子どもの伝道に教会が力を入れない理由は？

① お金にならない

→ 未信者の子なら、なおさら

② 教勢の拡大に直結しない

→ 成長した子どもたちの多くは都市部へ出て行く

→ 大人になるまで、地域教会につながっている率の低さ

■ 普遍的教会という意識なしに、子どもたちへの伝道はできない

→ 「私の教会の子ども」を育てるのではない!!

→ 遣わされ、仕えて行く子どもたちを育む!!

普遍的教会に仕える子どもたちを育み、遣わそう!!

なぜ信仰が継承されないのか？

- 家族伝道の難しさ → ごまかしが効かない
(※一般の人々も、シビアな目でクリスチャンを見ている)
- 問われる自分の生き様そのもの → 喜んで神に従っているか？
- 失敗すること、罪を犯してしまうこともある。
 - つまずかせない配慮は大事だが、格好つけても仕方ない
 - 大事なものは、悔い改めに早いこと。神の前に偽りのないこと
- 形だけの信仰が通用するのは、教会内の表面的なつきあいだけ
 - 私は本当に変えられ、成長していつているのか？

★ 信仰の継承のために覚えよう ★

- 信仰の成長は少しずつ。身近な人だからこそ小さな変化に気がつく。近しい関係性の中だからこそ、着実に証しできることがある。
- 心を開いてくれたとき、福音を伝える機会も必ず与えられる。伝えたら、主に委ねて見守りつつ、関係性を保っていこう。
→ 忍耐とは、主を信頼して、主が育まれるのを待つこと
- まず何より、私自身が喜んで聖書を学び、主に育まれていこう。信仰の兄弟姉妹の中に身を置こう。関係性の中で私は育まれる。

地域教会に足を据え、普遍的教会に連なっていこう!!

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

私は、一つのキリストの体、普遍的教会の一部とされました。

主が私に与えられた使命があります。御霊によって助けてください。

兄弟姉妹との交わりを深めつつ、喜んで主に礼拝をおささげします。

御言葉に私は育まれます。主を証しする者として遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」